

M7CL

クイックスタートガイド

A guide for people using M7CL Version 3 in the real world.

Part 1

M7CL Version 3および新モデルM7CL-48ESを加えたM7CLシリーズのための入門ガイド

このクイックスタートガイドは、初めてM7CLをお使いになる方、またM7CLおよびPCソフトウェアM7CL Editorをよりよく知るための手がかりを必要とされる方々のためのガイドです。



M7CL / M7CL-48ES クイックスタートガイド

M7CLクイックスタートガイドは3つのパートで構成されています。ヤマハプロオーディオサイト (<http://proaudio.yamaha.co.jp>) のセルフトレーニングページよりダウンロード可能です。

Part 1ではM7CLシリーズの紹介およびコンソールの基本操作について説明します。

Part 2では内蔵エフェクトラック、シーンメモリーのストアやリコールといったデジタルミキサー特有の機能について紹介します。

Part 3ではシーンメモリーのより詳細な使い方、およびPCソフトウェア「Studio Manager / M7CL Editor」を使用したリモートコントロールやオフライン設定について説明します。

M7CL-48ESをお使いの方は、EtherSoundシステム設計の基本について解説したヤマハプロオーディオサイトの「EtherSoundセットアップガイド」もご覧ください。



目次

M7CLシリーズの各モデルについて	3
M7CL関連機器	4
M7CLをお使いになる前に	5
シーン000とコンソールの初期化	5
10の簡単なステップで音を出してみる (M7CL-32/48)	6
M7CL-48ESとSB168-ESシステムの簡単設定	7
基本操作	8
各チャンネルの操作	8
チャンネルのパラメーターを操作する HAポップアップ、+48V	9
OVERVIEW画面からチャンネルパラメーターを操作する	10
SELECTED CHANNEL VIEW画面からチャンネルパラメーターを操作する	11
SENDS ON FADER - フェーダーを使用しての簡単なMIX/MATRIXセンドレベルの調整	12
チャンネルパラメーターポップアップ ATT/HPF/EQ/ポップアップウィンドウ	13
チャンネルに名前をつける	14
チャンネルパッチ パッチを変更する	15
チャンネルパッチ 初期設定パッチ、シーン000	16
MIXアウト - VARI/FIXED、プリ/ポストフェーダー、センドポイントなどの選択	17
MATRIXアウト - パッチ、機能	18
トラブルシューティング	19

M7CLシリーズの各モデルについて

M7CLには3つの異なるモデルがあります。それぞれ扱えるチャンネル数やマイクインプットの配置に違いがあります。

M7CL-48



M7CL-48はリアパネルに48チャンネルのヘッドアンプ付きモノラルインプット、4チャンネルのヘッドアンプ付きステレオインプットを備えています。アウトプットには16のOMNI OUT端子 (XLRタイプ) があり、ユーザーが任意のアウトプットチャンネルに自由にパッチすることができます。



M7CL-32



M7CL-32はリアパネルに32チャンネルのヘッドアンプ付きモノラルインプット、4チャンネルのヘッドアンプ付きステレオインプットを備えています。アウトプットには16のOMNI OUT端子 (XLRタイプ) があり、ユーザーが任意のアウトプットチャンネルに自由にパッチすることができます。

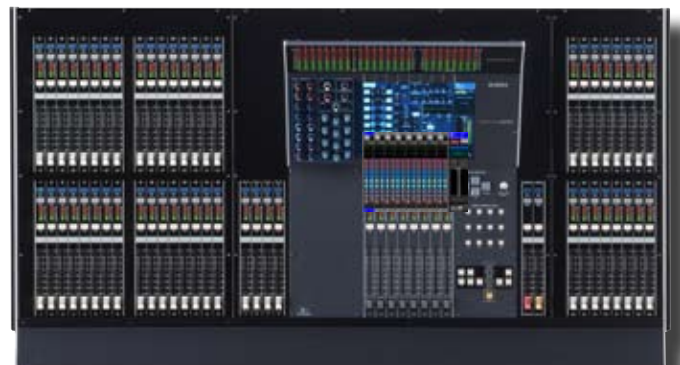


M7CL-48ES



M7CL-48ESはM7CL-48と同様に48チャンネルのモノラルインプット、4チャンネルのステレオインプットを備えていますが、リアパネルに配置されているのは8つのヘッドアンプ付きインプットと8つのOMNI OUT端子 (XLRタイプ) のみです。接続するマイクを増やすには、SB168-ESなどのリモートマイクインプットステージボックスを追加する必要があります。ステージボックスを追加するにはCat5eケーブルを使用してデジチェーン接続し、システム間の音声伝送にはEtherSoundプロトコルを使用します。M7CL-48ESはリアパネルにEtherSoundポートを備えています (このモデルにのみ搭載)。

M7CL-48ESでは、画期的なAuto Configure機能を使用して基本的なシステムの設定を簡単に行うことができます。



Note; ヤマハプロオーディオサイト (<http://proaudio.yamaha.co.jp>) のセルフトレーニングページで、EtherSoundを使用したシステム設計に関する基礎的な情報をまとめた「EtherSoundセットアップガイド」をダウンロードして入手いただけます。

M7CL関連機器

M7CL-48およびM7CL-32は「オールインワン」のデジタルミキサーであり、使用前の設定や機器の追加の必要がありません。両モデルはそれぞれ扱えるインプットの数が異なるだけです。M7CL-48ESでは使用前に外部HA（ヘッドアンプ）への接続が必要です。その場合にはヘッドアンプ付きリモートステージボックスとしてSB168-ESの使用をおすすめしますが、EtherSoundインターフェース NAI48-ESに接続したヤマハAD8HRのような他のEtherSound対応ヘッドアンプも使用することができます。M7CL-48ESとSB168-ESの基本的な設定はとても簡単で、詳しい設定方法については5ページで解説します。セットアップ時にはM7CL-48ESは一部を除いてM7CL-48とほぼ同じように機能します。このガイドでは、基本的に例としてM7CL-48を使って解説していき、機能の違いがある部分に関してのみ他のモデルについても触れていきます。また、PCソフトウェア「Studio Manager」、「M7CL Editor」についても解説します。

SB168-ES

SB168-ESはM7CL-48ESとの使用に最適なEtherSound専用リモートヘッドアンプおよびADコンバーターです。ヘッドアンプの設計と音質はM7CL内蔵ヘッドアンプとほぼ同様のものです。

SB168-ESはCat5eケーブルでM7CL-48ESと直接接続できます。フロントパネルのディップスイッチを正しく設定すればM7CL-48ESと複数台のSB168-ESの組み合わせのシステムで自動設定が行われます。この設定により追加されたリモートヘッドアンプはコンソール内部の48チャンネルにパッチされコントロール可能になります。したがって、EtherSound機器の設定・コントロール用PCソフトであるAVS-ESMonitorで設定する必要はありません。



PW800W

M7CLの電源を二重化するパワーサプライ（オプション）です。



MBM7CL

オプションのメーターブリッジです。



LA1L

ヤマハのLEDゲースネック照明ランプです。光源にLEDを採用し、高輝度・長寿命を実現します。



USBメモリー

USBメモリーを使用してM7CLデータの本体への転送、バックアップを行います。現在さまざまなメーカーから販売されており、容易に入手できます。



Tip; M7CLはUSB1.1に対応しているため、USB1.1およびUSB2.0どちらでも使用できます。記憶容量は16GBを超えるものを使用しないでください。ドライブのフォーマット形式はFAT12、FAT16またはFAT32に対応していますが、パーティション分割をしないでください。新しいメモリーをM7CLでフォーマットすることができますが、その場合メモリー内のすべてのデータが消去されますのでご注意ください。

MY (Mini-YGDAI) カード

M7CLはほとんどのMY16 / 8 / 4シリーズのカードに対応しています。MYカードは別系統の入出力を可能にします。MYカードを追加することで出力を16チャンネル以上に拡張したりマルチトラックレコーディングを行うことができます。



MYカードに関する情報はヤマハプロオーディオサイト (<http://proaudio.yamaha.co.jp>) をご覧ください。

M7CLをお使いになる前に

コンソールのファームウェアバージョンを確認する

このガイドはM7CL ファームウェアVersion 3のモデルについて説明しています。古いファームウェアをお使いの場合は、Version 3へのアップグレードをおすすめします。

最新のファームウェアはヤマハプロオーディオサイト (<http://proaudio.yamaha.co.jp>) から無償でダウンロードできます。



シーン000とコンソールの初期化

アナログコンソールを使う場合、コンソールの各種設定が初期状態になっているかどうかすべて確認しなければなりません。つまり、ゲインをミニマムに設定、EQをフラットに、オグジュアリーをフラットに、グループバスへのアサインを解除、インサートをオフ…など多くの大変な操作が必要でした。M7CLでは自身の設定を記憶することができるため、ヤマハではボタンひとつでコンソールを初期状態にリセットできる便利なシーンメモリー（シーン000）を用意しています。

シーン000

シーン000をリコールするには、SCENEフィールドにシーン000が点滅表示されるまでSCENE MEMORY [▲]/[▼] キーを押します。次に[RECALL]キーを押します。



M7CLの設定の中にはシーンメモリーに含まれないものがあります。たとえばワードクロック設定、アウトポート設定、ユーザー定義キーの割り当てなどはシーン操作によってリコールされません。また、後でこのガイドでも解説しますが任意のさまざまなパラメーターを通常のシーン操作によるリコールから除外することも可能です。このような時、シーン000をリコールしてもコンソールは完全に初期設定の状態には戻りません。コンソール全体を工場出荷時の設定に戻すには、コンソール内蔵メモリーの初期化を行います。新規にプロジェクトを作成したい時はこの方法をおすすめします。

Note; 内蔵メモリーの初期化を行うと、コンソール内のすべてのユーザー設定が消去されます。初期化する場合は必ずUSBメモリーまたはPC内のStudio Manager / M7CL Editorにバックアップをとってから行ってください。

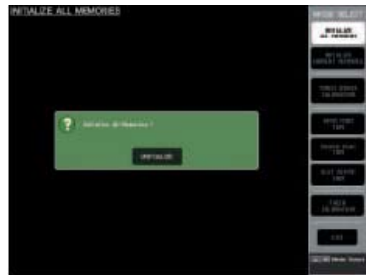
Tip; 特に固定設備でお使いになる方は、コンソールのファクトリープリセットを使用するよりも、必要なポートディレイやアウトプットパッチなどの設定内容をあらかじめUSBメモリーに保存したものを初期設定としてお使いになると便利です。

シーンに含まれない設定（シーン000によってリセットされず、すべてのシーンに共通の設定）

ユーザー定義キー	SENDS ON FADERモードで選択しているMIXチャンネル
プリファレンス	メーターポイント設定
ブライトネス設定	外部HAのスロットアサインおよびHPF
アウトポートディレイおよびレベル設定	ユーザーアクセスレベル
MIDIセットアップ	ネットワーク設定
ワードクロック	時刻設定
+48Vマスター	スロットおよびMYカード設定
CUEポップアップ; PFLTトリム(インプット/アウトプット)、DCAトリム	ユーザーライブラリー
Monitorポップアップ; (レベル、ソース オン/オフ、mono、リンク)	EQ/HPF(ユーザー設定およびプリセット)
オシレーター(全パラメーター)	Dynamics(ユーザー設定およびプリセット)
セーフ設定(ミュート、リコール)	*キーインは含みません。
パスワード/アドミニストレーター/ゲスト設定	GEQ(ユーザー設定のみ)
スクリーンページ/ポップアップ	Effects(ユーザー設定およびプリセット)

コンソールの初期化

コンソールを初期化するには、パネル上のSCENE MEMORY [STORE]キーを押しながら電源を入れます。INITIALIZE ALL MEMORIES画面が表示されるまで[STORE]キーを押し続けます。初期化完了を確認したら、EXITボタンを押して通常モードの起動画面に戻ります。



10の簡単なステップで音を出してみる (M7CL-32/48)



- 1 マイクまたは他の音楽ソース (CD等) を任意のインプットに接続します (例: 1ch)。
- 2 メインのLRをアウトプット15 (L)および16 (R) に接続します (M7CL-48ESの場合は7/8に接続)。

- 3 青色の[SEL]キーを押してチャンネルを選択し、エンコーダーを割り当てます。

- 4 チャンネルメーターを確認しながらHAゲインエンコーダーを回してインプットゲインを設定します。

- 5 信号レベルを常に「OVER」(赤色) 未満に保つよう調整します。

- 6 [ON]キーがオンになっていることを確認します。

- 7 フェーダーを上げます。

- 8 ステレオマスターチャンネルの[ON]キーがオンになっていることを確認します。

- 9 フェーダーを上げます。

- 10 これでスピーカーから音が出ました。もし音が出ない場合は、19ページのトラブルシューティングを参照ください。



M7CL-48ESとSB168-ESシステムの簡単設定

ステージ 1. システムのセットアップ M7CL-48ESはEtherSound対応のHAインプット機器と組み合わせる必要があります。ここでは、SB168-ESの使用をおすすめします。SB168-ESはM7CLと同様のHAユニットを備えており、M7CL-48ESと組み合わせて使用することを前提に設計されています。

SB168-ESのディップスイッチを下の写真のように設定すると、M7CL-48ESとSB168-ESを組み合わせたシステムはAuto Configure機能によりデジチェーンモードでEtherSoundネットワークの自動設定を行います。この時、PCは必要ありません。Auto Configureモードでは、EtherSoundのパッチはロックされ変更することはできません。パッチを変更したり他のEtherSound機器をシステムに追加したい場合は、AuviTran社のAVS-ESMonitorを使用してください。



M7CL-48ESリアパネル

SB168-ESフロントパネル

1. M7CL-48ESとSB168-ESの電源を入れる前に、M7CL-48ESのEtherSound OUTポートと1台目のSB168-ESのEtherSound INポートをCat5eケーブルで接続します。続いて残り2台のSB168-ESを同様にデジチェーン接続します。

Note; リング設定を行う場合は、最終機器のSB168-ESのOUTポートとM7CL-48ESのINポートを接続します。その場合、必ずM7CL-48ESのVIRTUAL RACK画面のEXT-HAページでRINGを選択してください。

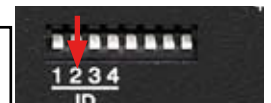


ケーブルリダントのためにリングモードでのAuto Configure設定も可能です。リングモードではSB168-ESのディップスイッチの設定を7, 8から5, 6に変更してください。



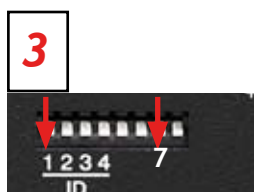
2.

SB168-ESフロントパネルのディップスイッチ1, 2, 3を下の表に従って設定します。ディップスイッチ1はチャンネル1-16、ディップスイッチ2はチャンネル17-32、ディップスイッチ3はチャンネル33-48のための設定となります。この設定により各SB168-ESにIDが割り当てられます。ID#1はチャンネル1-16、ID#2はチャンネル17-32、ID#3はチャンネル33-48が割り当てられます。



	No. of Unit	ID #1	ID #2	ID #3
Daisy Chain	3	1&7	2&7	3&8
	2	1&7	2&8	
	1	1&8		
Ring	3	1&5	2&5	3&6
	2	1&5	2&6	
	1	1&6		

Please set switch before power on.



3. 右記の表に従ってディップスイッチ7, 8を設定します。ディップスイッチ7はSB168-ES ID#1および#2の機器、ディップスイッチ8はID#3の機器のための設定です。SB168-ES ID#1~ID#3を異なる順番でデジチェーン接続している場合でも、ID#3の機器ではディップスイッチを8に設定してください(デジチェーン接続の場合、ディップスイッチを8に設定したSB168-ESがシステム内で最大のIDナンバーを持つ機器です)。

Note; リング設定を行う場合は、ディップスイッチ5をSB168-ES #1および#2に、ディップスイッチ6をSB168-ES #3に対して設定し、M7CL-48ESのVIRTUAL RACK画面でAuto ConfigureボタンをRINGに設定してください。



4.

各機器の電源を入れます(どのような順序でもかまいません)。この時点でAuto Configure機能によってステージボックスとコンソール間のEtherSoundパッチが自動設定されます。



ステージ 2. 音を出してみる ここまででセットアップステージ1は完了です。ステージ2は6ページの「10の簡単なステップで音を出してみる (M7CL-32/48)」の手順に従ってください。

基本操作

各チャンネルの操作

M7CLはアナログミキサーと同じような使いやすさを求めて設計されたデジタルミキサーです。パラメーター操作のやり方はアナログミキサーとは異なりますが、難しいことはありません。



 [SEL]キー

 Navigationキー

コントロールサーフェスにはすべてのインプットチャンネルのチャンネルストリップ、フェーダー、メーターおよびボタンが配置されています。

しかし、様々なパラメーター操作ノブを全チャンネルに配置するかわりに、1チャンネルだけのエンコーダーグループを共通で使用します。青色の[SEL]キーを押して操作したいチャンネルにチャンネルエンコーダーを割り当てます。

チャンネル設定の詳細を一覧したり他のチャンネル設定を操作するには、Centrallogicセクションにチャンネルを呼び出します。OVERVIEW画面 (8チャンネル) またはSELECTED CHANNEL VIEW画面 (1チャンネル) が選択できます。

OVERVIEW画面

Navigationキーをどれか一つ押すとスクリーンに8チャンネルOVERVIEW画面が表示されます。ここでチャンネル設定やレベルを確認することができます。



SELECTED CHANNEL VIEW画面

[SEL]キーを押してチャンネルを選択します。これでロータリーエンコーダーを使用して選択したチャンネルを操作できます。エンコーダーの値を確認するには、エンコーダーをどれかひとつ押すとSELECTED CHANNEL画面がスクリーンに表示されます。



基本操作

チャンネルのパラメーターを操作する HAポップアップ、+48V

チャンネルをOVERVIEW画面またはSELECTED CHANNEL画面に割り当てたら、各パラメーターを操作していきます。



8チャンネルOVERVIEW画面では、スクリーンのすぐ下にある8つのエンコーダーを使用してパラメーターの調整ができます。画面上のノブの列 (HAまたはMIXセンド) を押して対応するエンコーダーを回すだけです。

特定のパラメーターの詳細を見るには、スクリーン上でそのパラメーター部分をタッチします。どちらのメイン画面からでも必要な機能 (例: HAコントロール) のところを押すと、ポップアップウィンドウがスクリーンに表示されます。



SELECTED CHANNEL画面では、スクリーン左に配置されたエンコーダーを操作することで各パラメーターの設定を変更することができます。



押す



HA/PATCHポップアップウィンドウでは、HAゲイン調整のほかに+48Vファンタム電源のオン/オフや位相の切り替えを行うことができます。また、NAME/PATCHポップアップウィンドウからでも、ウィンドウ下部にあるタブを選択して8チャンネルまたは全チャンネルのHA設定を一覧することができます。

Tip; +48VマスタースイッチはSETUPページにあります。コンデンサーマイクが動作しない場合はマスタースイッチがONになっているか確認してください。

ポップアップウィンドウを閉じるには[X]を押します。

Tip; スクリーンのポップアップウィンドウ外側の部分をタッチしても閉じることができます。

同様にスクリーンをタッチすることでアクセスできるポップアップには、インサートおよびダイレクトアウト設定、EQ/アッテネーター、Dynamics1/2、MIXセンド、Pan/LCR設定、DCAおよびミュートグループ設定、NAME/ICON/PATCH、リコールセーフの設定などがあります。

基本操作

OVERVIEW画面からチャンネルパラメーターを操作する

8チャンネルOVERVIEW画面からスクリーン上の関連するエリアにタッチするだけで、すべてのチャンネルパラメーターポップアップにアクセスすることができます。また、スクリーン下のエンコーダーを使用してパラメーターを操作することができます。

押す

CH 1
ch 1

+48V
+10

INS
D. OUT

-26dB

-8dB

00 -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

0.00 -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

-∞ -∞

ST
MONO

1 2 3 4 5 6 7 8
1 2 3 4 5 6 7 8

CH 1
ch 1

パッチ / NAME
CH 1
ch 1

PORT SELECT
IN 1 IN 2 IN 3 IN 4 IN 5 IN 6 IN 7 IN 8
OUT 1 OUT 2 OUT 3 OUT 4 OUT 5 OUT 6 OUT 7 OUT 8

INPUT PATCH
CH 1 CH 2 CH 3 CH 4 CH 5 CH 6 CH 7 CH 8
FADER FADER FADER FADER FADER FADER FADER FADER

OUTPUT PATCH
CH 1 CH 2 CH 3 CH 4 CH 5 CH 6 CH 7 CH 8
FADER FADER FADER FADER FADER FADER FADER FADER

CH 1 CH 1
FLAT
ATT TYPE 1 TYPE 2
HIGH MID HIGH
LOW MID LOW
TREBLE PRESENCE

CH 1 CH 1
GATE
PARAMETER
KEY IN

TO STEREO / MONO
CH 1 CH 2 CH 3 CH 4 CH 5 CH 6 CH 7 CH 8
STEREO STEREO STEREO STEREO STEREO STEREO STEREO STEREO
MONO MONO MONO MONO MONO MONO MONO MONO

TRIM SEND (to PRE 1)
CH 1 CH 2 CH 3 CH 4 CH 5 CH 6 CH 7 CH 8
PRE PRE PRE PRE PRE PRE PRE PRE
ON ON ON ON ON ON ON ON

DCA / MUTE GROUP ASSIGN MODE
DCA GROUP ASSIGN
CH 1 CH 2 CH 3 CH 4 CH 5 CH 6 CH 7 CH 8
DCA GROUP 1 DCA GROUP 2 DCA GROUP 3 DCA GROUP 4 DCA GROUP 5 DCA GROUP 6 DCA GROUP 7 DCA GROUP 8

スクリーン下のエンコーダーを使用して画面上でハイライトされたノブを操作することができます。
Tip; エンコーダーを押しながら回すことでより細かいステップ(数値幅)で操作できます。

基本操作

SELECTED CHANNEL VIEW画面からチャンネルパラメーターを操作する

SELECTED CHANNEL VIEW画面からスクリーン上の関連するエリアにタッチするだけで、すべてのチャンネルパラメーターポップアップにアクセスすることができます。また、スクリーン下のエンコーダーを使用してパラメーターを操作することができます。

Note; ポップアップウィンドウの中には、複数の異なるエリアからアクセスできるものもあります。

スクリーン下のエンコーダーを使用して画面上でハイライトされたノブを操作することができます。スクリーン上のノブが並んでいる部分をタッチすると、ノブの周りが白くハイライトされます。これは、その列が現在操作可能だということを示しています。

Tip; エンコーダーを押しながら回すことでより細かいステップ(数値幅)で操作できます。

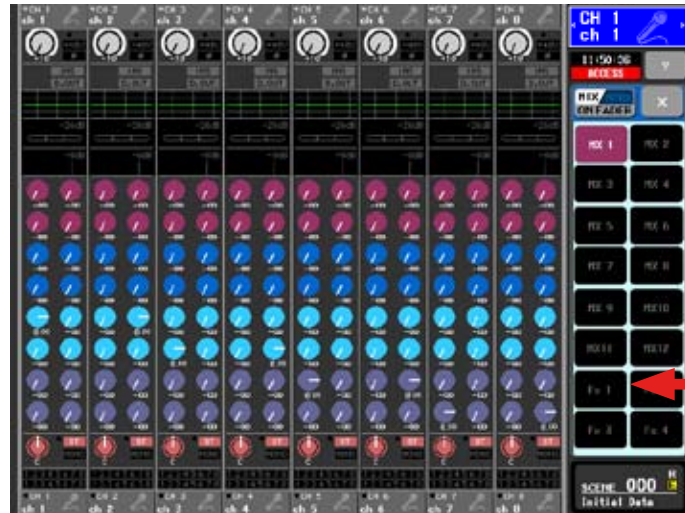
基本操作

SENDS ON FADER - フェーダーを使用しての簡単なMIX/MATRIXセンドレベルの調整

MIX/MATRIXセンドレベルの調整はスクリーン横または下のエンコーダーを使用して行うことができますが、効率の良いモニターミックスのためにM7CLではSENDS ON FADERモードが用意されています。

Tip; ユーザー定義キー1を押してMIX ON FADERモードに、ユーザー定義キー2を押してMATRIX ON FADERモードに入ります。

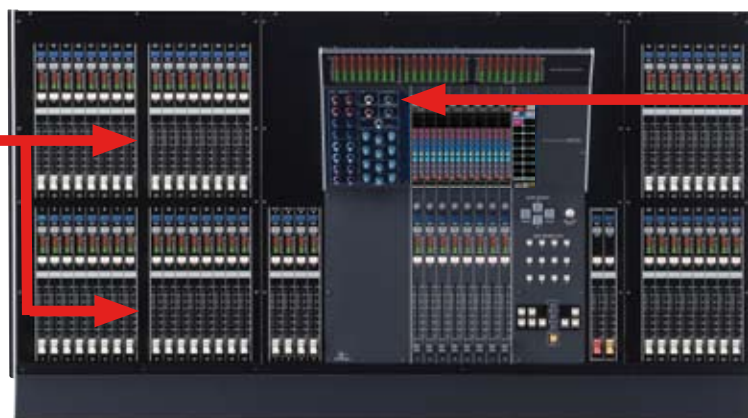
Tip; 現在選ばれているMIX/バス選択ボタンをもう1回押すと、対応するMIXチャンネルのキューモニターがオンになりボタンの色が黄色に変わります。



スクリーンのファンクションアクセスエリアでSENDS ON FADERボタンを押すとM7CLがSENDS ON FADERモードに切り替わります。

MIX/MATRIX/バス選択ボタンを押して送り先のMIX/MATRIXをフェーダーに呼び出します。

これでインプットフェーダーがMIXフェーダーとして割り当てられ、各MIXは同様のやり方でミックスできます。この方法は特にモニターエンジニアのオペレーションに適しています。



モニターミックス用フェーダー

Note; SENDS ON FADERモードでは、選択されているチャンネルの[SEL]キーが点滅し、他のすべてのチャンネルの[SEL]キーは点灯します。

Tip; スクリーン上のMIX/MATRIX/バス選択ボタンのかわりに、MIXエンコーダーを押してMIX/MATRIX/バスを選択することもできます。

MATRIX ON FADERにアクセスするには、MIX/MTRX ON FADER切り替えボタンを押します。

M7CLは16のMIXグループを持ち、SENDS ON FADERでモニターミックスをするのに適しています。M7CLはまた8つのMATRIXグループを持ちます。通常のマスターおよびMIXグループのミックスを行うMATRIX機能に加え、MATRIXにはインプットチャンネルを直接入力することができるので、大規模なモニターミキシング用のMIXグループとしても機能します。

SENDS ON FADERにはMIX ON FADERとMATRIX ON FADERの2つのページがあります。スクリーン上のMIX/MTRX ON FADER切り替えボタンまたはユーザー定義キー1、2を使用してページを切り替えます。

MATRIX ON FADER



MIX ON FADER



チャンネルパラメーターポップアップ ATT/HPF/EQ/ポップアップウィンドウ

選択したチャンネルのEQはSELECTED CHANNELパネル上のEQエンコーダーを使って操作します。ATT/HPF/EQポップアップウィンドウによってパラメーターの変化を視覚的にも把握することができ、またシェルビング/ピーキングおよびLPF設定のように必要な変更を追加を行うことができます。

COPYボタンを押すと現在表示されているEQカーブを一時的にコピーバッファへ保存します。他のEQを選択している状態でPASTEボタンを押すと、バッファに保存されていた設定がペーストされます。ペーストはアンドゥできませんので注意してください。

Tip; あるEQカーブをコピーバッファにコピーした場合、そこからEQカーブを変更した後にCOMPAREボタンを押すことで2つのEQカーブ設定を切り替えて比較することができます。

ONボタンでEQのオン/オフを切り替えます。オフの時、EQカーブはグレイアウト表示されます。

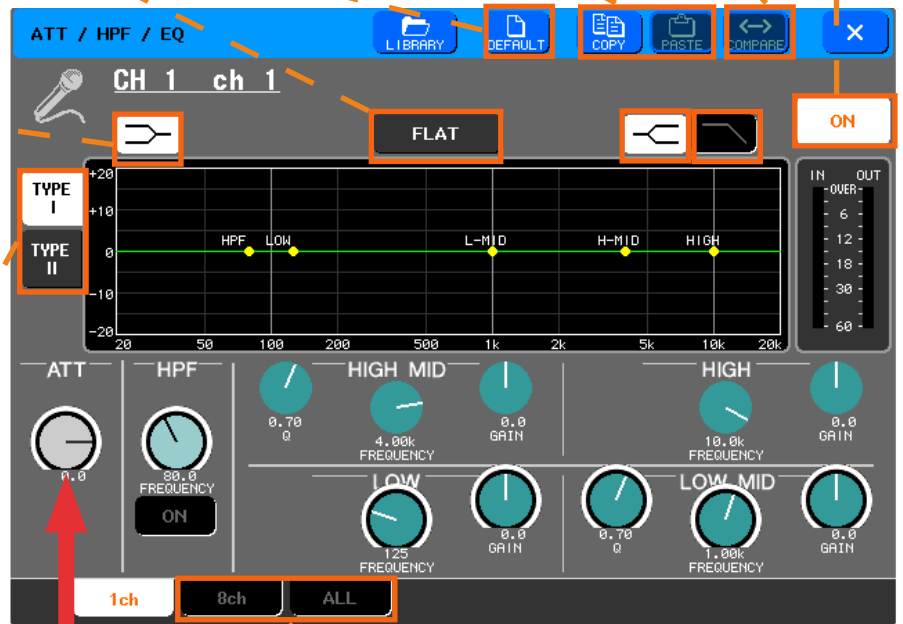
FLATボタンを押すとEQゲインを初期設定値(0.0dB)にリセットします。DEFAULTボタンは現在選択されているチャンネルのEQゲイン、バンド、およびQの設定を初期状態に戻します。

これらのボタンを使用しHIGH/LOWバンドのシェルビング/ピーキングを切り替えます。HIGHバンドではLPFも選択できます。

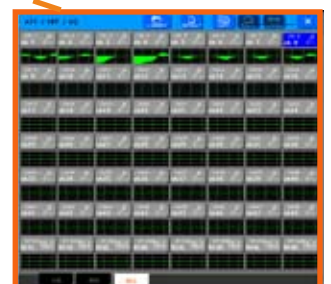
TYPE Iでは従来のヤマハデジタルミキサーと共通のアルゴリズム、TYPE IIでは新開発のアルゴリズムが使用できます。各タイプはオーディオ特性がわずかに異なります。

Tip; TYPE IIではよりアナログに近い感覚を得られます。EQカットを多く使用する場合はTYPE Iの使用をおすすめします。

ATTノブはデジタルアッテネーターです。これを使用してデジタル入力信号のアッテネーション/ゲイン量の調整や、EQのブースト/カットによる信号レベルの補正を行います。



複数チャンネルのEQ設定を見るには、ウィンドウ下部の[8ch]および[ALL]タブを選択します。コピー＆ペースト操作やアッテネーターの使用時に便利です。



チャンネルに名前をつける

アナログミキサーの場合、テープとペンを使用して各チャンネルに名前をつけるというやり方がありますが、M7CLではチャンネルが Centralogic に割り当てられると各チャンネルの名前とアイコンがスクリーン上に表示されます。

Tip; スクリーン上の名前は、コンソールの設定をセッションファイルとして保存して他のコンソールに移す場合に便利です。転送されたデータをもとに、新たにチャンネル名をパネル上のテープに書いていくことができます。



グレーのチャンネル名前ボタンを押して PATCH/NAME ポップアップウィンドウを開きます。

タッチスクリーン上のキーボードウィンドウを使って、文字を入力します。

Tip; ウィンドウに表示されているアイコンまたはウィンドウ下部の [ICON] タブを押すと ICON 設定画面に変わります。アイコンを選択してから SAMPLE NAME を一覧から選択します。タッチスクリーン上でチャンネル名前入力画面の部分を押すか、[NAME] タブを選択することで NAME ページのキーボードウィンドウが表示されます。チャンネル名はここで変えることができます。



チャンネル名前設定画面



アイコン設定画面

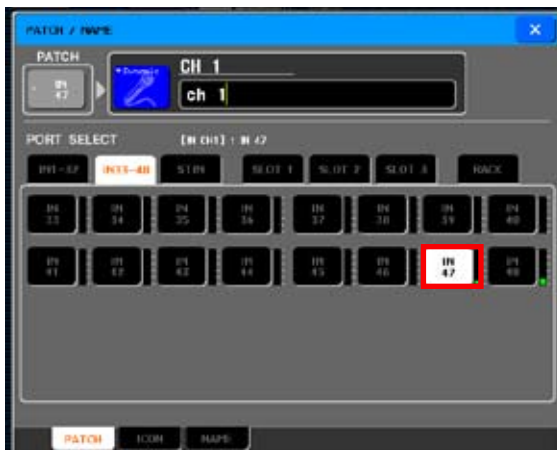
チャンネルパッチ パッチを変更する

CDプレイヤーをコンソール (M7CL-48) あるいはステージボックスSB168-ES (M7CL-48ES) のインプット47、48に接続した場合、オーディオはチャンネル47、48に入力されます。しかし、このオーディオをチャンネル1、2にルーティングしたいという場合には、コンソールの内部パッチを変更します。

Note; まず必要なチャンネルを選択してから、そのチャンネルに送りたい入力ソースを選択します。



オーディオを立ち上げたいチャンネル (ここではチャンネル1) を選択します。PATCH/NAMEポップアップウィンドウを開き、そこで入力ソースを選択します。ここでは、IN47をパッチします。
次にチャンネル2を選択し、IN48をパッチします。ここでチャンネルネームの編集とアイコンの選択もできます。



Note; ここでの手順ではIN47はチャンネル1にパッチしていますが、この時点ではまだIN47はチャンネル47にもパッチされていることに注意してください。音声信号は分岐して2つのチャンネルに送られます。

Note; 音声信号の分岐はHAの後で行われるため、HAコントロールを調整した場合はチャンネル1、チャンネル47両方に影響します。



M7CL-48ESはM7CL-32/48とは異なり、インプットポートにはES1、ES2、ES3...と名前がつけられています。EtherSoundパッチに変更を加えない場合、これらのインプットポートはステージボックスのXLRインプットに一对一で対応します。OMNIインプットはコンソールのリアパネルに8つのローカルインプットを持ちます。

Note; コンプやGEQ等の外部機器をチャンネルにインサートしたい場合も上記と同様の方法でパッチすることができます。M7CL-32/48では、外部インサート機器はスロットポートにパッチしてください。M7CL-48ESではOMNI I/Oポートにもインサートパッチすることができます。

Note; M7CL-48ESのセッションファイルをM7CL-32/48にロードした場合、OMNIポートにパッチしたインサートは使えませんので注意してください。

チャンネルパッチ 初期設定パッチ、シーン000

アナログコンソールとは異なり、リアパネルのインプット端子に対応するパネル上のインプットチャンネルは、固定されているわけではありません。M7CLでは、インプット端子とチャンネル間のパッチは自由にアサインが可能です。そのため柔軟に内部パッチを設定することができますが、複雑にならないよう慎重に設定する必要があります。



M7CL-32/48の場合、初期設定シーン000ではすべてのモノラルインプット端子はコンソールのインプットチャンネルに一对一でパッチされています。

Note; ST IN端子はヘッドアンプ付ステレオインプット端子ですが、これらはコンソールのST INチャンネルにはパッチされていません。ST INチャンネルにはエフェクトリターンがパッチされています。

Out	Ch	Out	Ch
1	Mix 1	9	Mix 9
2	Mix 2	10	Mix 10
3	Mix 3	11	Mix 11
4	Mix 4	12	Mix 12
5	Mix 5	13	Mtrx 1
6	Mix 6	14	Mtrx 2
7	Mix 7	15	Left
8	Mix 8	16	Right



M7CL-48ESの場合、Auto Configure機能を使用した時 (EtherSoundのパッチにAVS-ESMonitorを使用しない) は、初期設定シーン000ではすべてのモノラルインプット端子は同様にコンソールのインプットチャンネルに一对一でパッチされています。

Note; リアパネルのXLRマイクインプットはコンソールのインプットチャンネルにはパッチされていません。



Out	Ch	Out	Ch	Out	Ch
1	Mix 1	9	Mix 7	17	Mtrx 1
2	Mix 2	10	Mix 8	18	Mtrx 2
3	Mix 3	11	Mix 9	19	Mtrx 3
4	Mix 4	12	Mix 10	20	Mtrx 4
5	Mix 5	13	Mix 11	21	Mtrx 5
6	Mix 6	14	Mix 12	22	Mtrx 6
7	Left	15	Left	23	Left
8	Right	16	Right	24	Right

Output	M7CL-32/48 Patching			M7CL-48ES Patching		
Mix 1	Omni 1	Slot 1-1	Slot 1-9	SB#1-1	Slot 1-1	Slot 1-9
Mix 2	Omni 2	Slot 1-2	Slot 1-10	SB#1-2	Slot 1-2	Slot 1-10
Mix 3	Omni 3	Slot 1-3	Slot 1-11	SB#1-3	Slot 1-3	Slot 1-11
Mix 4	Omni 4	Slot 1-4	Slot 1-12	SB#1-4	Slot 1-4	Slot 1-12
Mix 5	Omni 5	Slot 1-5	Slot 1-13	SB#1-5	Slot 1-5	Slot 1-13
Mix 6	Omni 6	Slot 1-6	Slot 1-14	SB#1-6	Slot 1-6	Slot 1-14
Mix 7	Omni 7	Slot 1-7	Slot 1-15	SB#2-1	Slot 1-7	Slot 1-15
Mix 8	Omni 8	Slot 1-8	Slot 1-16	SB#2-2	Slot 1-8	Slot 1-16
Mix 9	Omni 9	Slot 2-1	Slot 2-9	SB#2-3	Slot 2-1	Slot 2-9
Mix 10	Omni 10	Slot 2-2	Slot 2-10	SB#2-4	Slot 2-2	Slot 2-10
Mix 11	Omni 11	Slot 2-3	Slot 2-11	SB#2-5	Slot 2-3	Slot 2-11
Mix 12	Omni 12	Slot 2-4	Slot 2-12	SB#2-6	Slot 2-4	Slot 2-12
Mix 13	Rack 1	Slot 2-5	Slot 2-13	Rack 1	Slot 2-5	Slot 2-13
Mix 14	Rack 2	Slot 2-6	Slot 2-14	Rack 2	Slot 2-6	Slot 2-14
Mix 15	Rack 3	Slot 2-7	Slot 2-15	Rack 3	Slot 2-7	Slot 2-15
Mix 16	Rack 4	Slot 2-8	Slot 2-16	Rack 4	Slot 2-8	Slot 2-16
Matrix 1	Omni 13	Slot 3-1	Slot 3-9	SB#3-1	Slot 3-1	Slot 3-9
Matrix 2	Omni 14	Slot 3-2	Slot 3-10	SB#3-2	Slot 3-2	Slot 3-10
Matrix 3		Slot 3-3	Slot 3-11	SB#3-3	Slot 3-3	Slot 3-11
Matrix 4		Slot 3-4	Slot 3-12	SB#3-4	Slot 3-4	Slot 3-12
Matrix 5		Slot 3-5	Slot 3-13	SB#3-5	Slot 3-5	Slot 3-13
Matrix 6		Slot 3-6	Slot 3-14	SB#3-6	Slot 3-6	Slot 3-14
Matrix 7		Slot 3-7	Slot 3-15		Slot 3-7	Slot 3-15
Matrix 8		Slot 3-8	Slot 3-16		Slot 3-8	Slot 3-16
Left	Omni 15	AES/EBU		SB#1,#2,#3,-7	AES/EBU	Omni 7
Right	Omni 16	AES/EBU		SB#1,#2,#3,-8	AES/EBU	Omni 8
Mono	Not patched					
Monitor L	Not patched					Omni 5
Monitor R	Not patched					Omni 6
Monitor C	Not patched					

シーン000の初期設定アウトプットパッチ

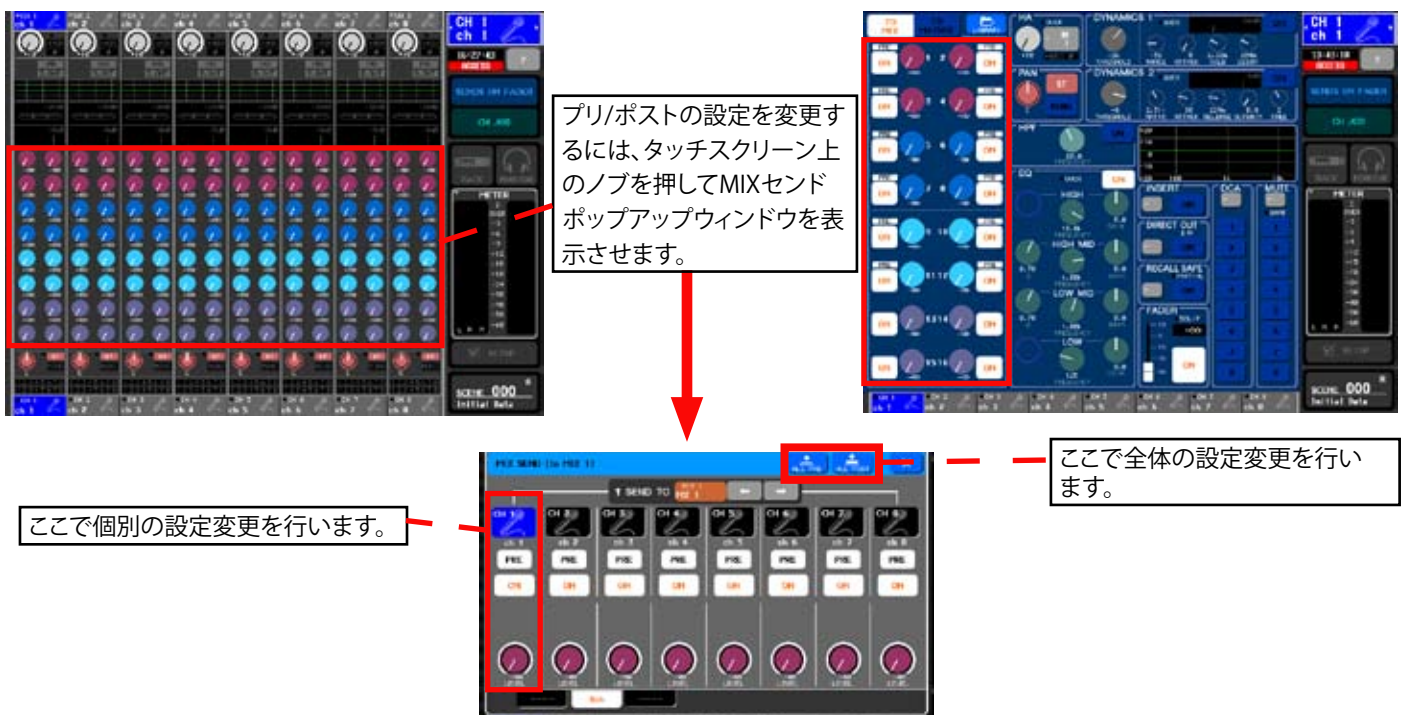
Tip; シーン000では、ステレオマスターのL/Rは常に機器の最後の2つの端子から出力されるようパッチされています。M7CL-32/48の場合はOMNI15/16、M7CL-48ESおよびSB168-ESの場合はOMNI 7/8です。

MIXアウト - VARI/FIXED、プリ/ポストフェーダー、センドポイントなどの選択

M7CLにはMATRIX、マスターおよびモニターアウトに加え、16のMIXバスアウトプットがあります。MIXバスはVARIABLEであるAUXバスまたはFIXEDであるSub-groupバスに設定できます。M7CL-32/48ではすべてのアウトプットは16のXLR OMNIアウト、AES/EBUアウトおよびMYカードスロットアウトを共有します。M7CL-48ESでは、アウトプットは8つのXLR OMNIアウト、AES/EBUアウト、MYカードスロットアウトおよび24のEtherSoundアウト (SB168-ES #1、#2、#3を接続している場合) を共有します。



初期設定では、16のMIXバスはすべてVARIABLE (AUX)になっています。最初の12バスはプリフェーダー送り(モニター)で最後の4バスはポストフェーダー送り(エフェクト)となっていますが、これらの設定は個々に変更することができます。



MIXグループをVARIABLE (AUX)からFIXED (Sub-group)に変更したり、センドポイントをプリフェーダーからプリEQ/Dynamicsに変更するには、SETUP画面からBUS SETUPポップアップウィンドウにアクセスします。また、MIXバスのステレオペアの設定もここで行います。



MATRIXアウト - パッチ、機能

M7CLは8つのMATRIXアウトを持ち、すべてのインプットおよびアウトプットチャンネルをパッチすることができます。つまり、M7CL-48/ESでは75 x 8通り、M7CL-32では59 x 8通りのマトリックスを実現します。MATRIXマスターはNavigationキーの[MATRIX]を押すことでCentrallogicセクションに割り当てることができます。

MATRIXマスター画面

MATRIXマスター画面では、8 MATRIXアウトについての情報、EQ/Dynamics設定、パッチおよびチャンネルネームの情報などを見ることができます。

MATRIX SELECTED CHANNEL VIEW画面

MATRIX SELECTED CHANNEL VIEW画面では、エンコーダーで調整したパラメーター設定の詳細を見ることができます。

Note; これらの画面上のカラーノブは、MIXバスからのセンドレベルを表示しています (MIXバスへのセンドレベルを表示しているものではありません)。



このガイドの16ページの表でMATRIXのアウトプットパッチを確認できます。

Tip; コンソールのSETUP>OUTPORT SETUPでも確認することができます。

これらのパッチを変更するには、OVERVIEW画面のチャンネルネーム部かSELECTED CHANNEL VIEW画面のグレーのパッチボタン(インプットチャンネルではHAを表示している部分)を押してPATCH/NAMEポップアップウィンドウを開きます。

Note; インプットチャンネルのSELECTED CHANNEL VIEW画面でMIXセンド表示部上のタブを押すことで、MATRIXセンドを表示させることができます。
Tip; またはファンクションアクセスエリアのMTRX SENDS ON FADERボタンを使用します。



トラブルシューティング

6ページで解説している「10の簡単なステップで音を出してみる(M7CL-32/48)」のためのトラブルシューティングです。

インプットにST IN (またはOMNI) チャンネルを使用していませんか？

- ☞ シーン000ではパッチされていません。モノラルインプット (またはSB168-ES) チャンネルを選択するか、15ページを参照してパッチの変更を行ってください。

ファンタム電源が必要なマイクやDIを使用していますか？

- ☞ ファンタム電源のオン/オフのやり方については、9ページを参照してください。または、ダイナミックマイク/パッシブボックスを使用してください。

ファンタム電源をONにしても電源が供給されない。

- ☞ SETUP画面の+48VマスターがONになっているか確認してください (+48Vマスターはシーン設定に含まれず、シーンチェンジの影響を受けません)。

リコールセーフの設定がされていませんか？

- ☞ 一部のパラメーターにリコールセーフが設定されていると、シーン000が完全にリコールされません。CH JOB>RECALL SAFE設定画面でリコールセーフの設定をすべてクリアし、もう一度シーン000をリコールしてください。

SENDS ON FADERモードが有効になっていませんか？

- ☞ M7CLがSENDS ON FADERモードになっている場合、チャンネルフェーダーはチャンネルマスターではなくMIXセンドレベルの設定になります。SENDS ON FADERモードでは、選択しているチャンネル以外のすべての[SEL]キーのインジケータが点灯します。通常モードでは選択しているチャンネルの[SEL]キーのインジケータのみ点灯し、その他のチャンネルの[SEL]キーインジケータはオフになります。

M7CL-48ESとSB168-ESを組み合わせたシステムが正常に動作しない。

- ☞ SB168-ESのディップスイッチは正しく設定されていますか？また、ディップスイッチはユニットの電源をオンにする前に設定する必要があります。
- ☞ ケーブルは正しく接続されていますか？機器のOUT>IN>OUT>INの順にケーブルを接続してください。
- ☞ Auto Configure機能は有効になっていますか？コンソールのVIRTUAL RACK画面上部のEXT-ES HAタブを選択して設定を確認してください。

トラブルシューティング

ファンタム電源が機能しない。

- ☞ +48Vファンタム電源はHAポップアップウィンドウでオン/オフできますが、SETUP画面にファンタムマスターのスイッチもあるので注意してください。ファンタムマスターの設定はシーンリコールの影響を受けません。

MIXセンドをエンコーダーで調整する時のステップが大きい。

アウトプットディレイ設定で細かい調整をしたい。

- ☞ エンコーダーを押しながら回すと、より細かいステップでの調整が可能です。

Navigationキーを押した時、タッチスクリーンの画面は変わるがフェーダーがバンクにアサインされない。

- ☞ 他のフェーダーバンクを選択している場合でもDCAマスターを常にCentralogicセクションにアサインしておきたい時に使われる機能が有効になっている可能性があります。Navigationキーのインジケータが点滅するまで押し続けると、タッチスクリーン画面を切り替えても現在アサインされているフェーダーバンクはCentralogicセクションにロックされたままになります。解除するにはもう一度Navigationキーを長押しします。

シーン000をリコールしても、一部のフェーダーやパラメーター設定が初期値にリセットされない。

- ☞ 一部のパラメーターでリコールセーフが設定されている可能性があります。リコールセーフが設定されていると、シーン000が完全にリコールされません。CH JOB>RECALL SAFE設定画面でリコールセーフの設定をすべてクリアし、もう一度シーン000をリコールしてください。シーンリコールの影響を受けない設定については、このガイドの5ページを参照してください。

フェーダーが意図したとおりに機能しない。

- ☞ コンソールがSENDS ON FADERモードになっていませんか？SENDS ON FADERモードが有効になっている場合、チャンネルフェーダーはチャンネルマスターではなくMIXセンドレベルの設定になります。SENDS ON FADERモードでは、選択しているチャンネル以外のすべての[SEL]キーのインジケータが点灯します。通常モードでは選択しているチャンネルの[SEL]キーのインジケータのみ点灯し、その他のチャンネルの[SEL]キーインジケータはオフになります。
- ☞ また、チャンネルムーブの設定やパッチの変更がされている可能性もあります。パッチとチャンネルネーム/ナンバーを確認して、意図したとおりの設定かどうか確認してください。

アウトプットディレイの設定をしたい。

- ☞ アウトプットポートディレイの設定は、SETUP画面のOUTPUT PORTポップアップウィンドウで行います。

M7CLやM7CL Editorについてのより詳細な情報がほしい。

- ☞ M7CLおよびM7CL Editorのマニュアルは下記のヤマハプロオーディオサイトからダウンロードできます。
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/result.php?WORD=M7CL&div=pa>